

広報ただみ診療所

診療所の「看護・介護スタッフ」について
～お互い協力し、補い合っています

朝日診療所 看護師長 馬場 トシ子



早いもので、本年度もあと約1ヶ月となりました。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」などと言われるように、毎日あっという間に過ぎてしまい時の流れの早さを実感しています

今回は、朝日診療所で看護・介護業務をしているスタッフについて書かせていただきます。現在、朝日診療所には16名の看護・介護スタッフがいます。皆さんは多いと思われるかもしれませんが、実際はギリギリでローテーション勤務をしています。そのうち60歳以上のスタッフが6名おり、豊富な経験と確かな技術、そして高いコミュニケーション力でさりげなくフォローしてくれるので頼もしい存在です。

「触ったら熱かったよ」「いつもと違うようだよ」など、患者さんの一番身近にいる介護スタッフからの情報もとても役に立ちます。また、子育て世代のスタッフも、家族の協力もあり、勤務調整をしながら夜勤もしています。そして、外来と病棟の状況を把握しながら、お互いが協力し補い合って勤務をしています。

日本看護協会の調査によると、「出産・育児」を理由に退職する看護師が多いことが報告されています。また、地方では看護師不足が深刻な状況となっており、今後は、今以上にシニア世代の働く人の割合が高くなると思います。これらのことを踏まえ、体力面での不安やライフスタイルが変わっても働き続けられるよう雇用形態の多様化など、働きやすい環境づくりが必要だと感じています。

私たちは、地域の方々が安心して生活できるよう、必要な医療の提供に努めています。それらを今後も継続するためには、看護・介護スタッフの充実はかせません。地域医療に興味のある方、地域に密着した当診療所で働いてみたいと思われる方は、是非一度見学にいらしてください。お待ちしております。まだ寒さが厳しく、雪の降る日もありますが、春に向かっていくことは間違いありません。コロナ禍を乗り越えて、以前のように会話を楽しみながら、「こんなことがあったね…こんな言葉がはやったね…」と思えば花を咲かせる日が早く来るといいですね。

地域おこし協力隊として Vol.99

只見町教育振興協力隊 はらなが まどか
原永 円香



只見町に来てから約1年が経ちました。大雪に怯えていましたが、例年よりはあまり降らなかったこともあり、何とか切り抜けることができそうです。

雪が降る前は、福島県内の行ったことのない地域を回りたいという一心で、車でいろいろなところへ行き、ほぼすべての市町村に行くことができました。フタバズキリュウの産出地に行けたことは良い思い出です。

雪が降ってからは、遠出をする機会はめっきり減りました。一方で、1月、2月は町内のたくさんの行事を見に行く機会を得ることができました。「おんべ」はそのうちのひとつです。今年は、大倉、小林、二軒在家の3地域のおんべを見ることができました。「小林早乙女踊り・神楽」においては、当日だけではなく、練習から見学させていただくことが出来ました。学生時代に民俗芸能の授業を履修していましたが、その際に「小林早乙女踊り・神楽」の映像を見たことがあります。今回、その伝統芸能を練習からすべて見ることができ、本当にうれしかったです。神楽では、チャンガラと呼ばれている鉦を叩くという貴重な体験もしました。この場を借りて、小林早乙女保存会の皆様に感謝申し上げます。

来たばかりのころよりは、町の方たちと知り合う機会も増えており、うれしく思っています。1月31日からは勤務地である「ただみ・モノとくらしのミュージアム」で新しい展覧会が始まりました。ぜひお気軽にお越しください。